



DX戦略

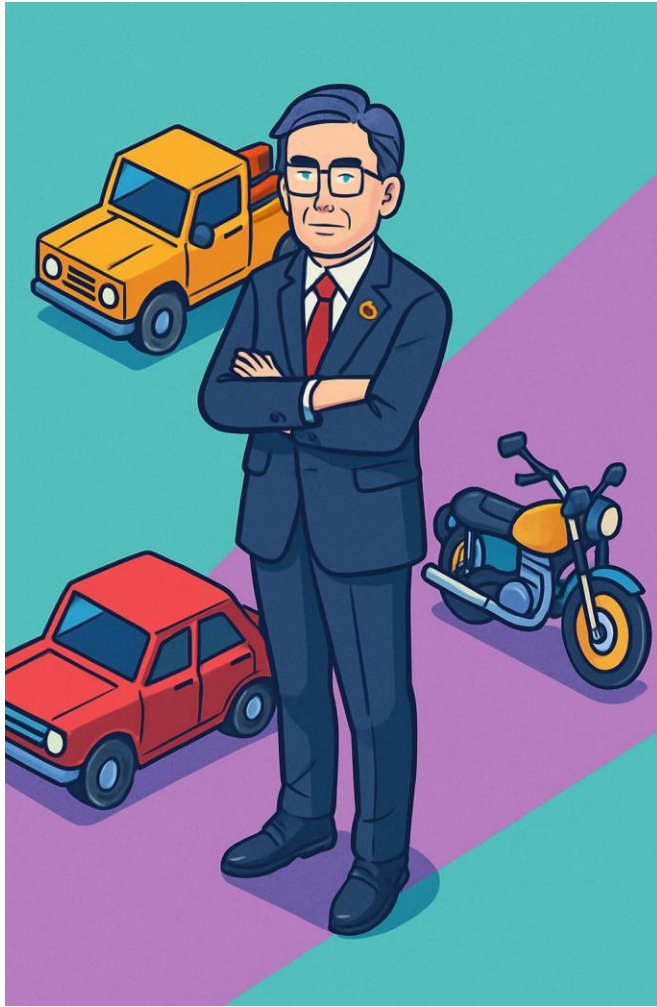
※本戦略で作成した画像につきましては、社内生成AIを活用し作成しています。

目次

- トップメッセージ
- スズキのOS：社是・行動理念
- スズキのこれまでのデジタル変革
- スズキデジタルビジョン2030
 - 人財の変革
 - 組織・風土の変革
 - 製品・サービスの変革
- リスク管理
- DX推進体制



トップメッセージ



人×AIの融合でインフラモビリティへの歩みを加速する ～スズキのDX戦略～

スズキは、創業の精神、社是・行動理念を実践し、祖業となる織機から二輪、四輪、マリンと商品・サービスを変革させ、お客様の生活を豊かにし、日々の暮らしを支える存在として歩を進めてまいりました。2025年2月に、2030年度までの新中期経営計画 By Your Side の中で、「チームスズキはお客様の生活に密着したインフラモビリティを目指す」ことを発表しました。

お客様により一層ご満足いただくためには、時代の変化に即した新たなテクノロジーを使いこなすことが必要です。特にAIの技術革新は進んでおり、AIを活用できるか、できないかが今後の成長を左右すると考えています。当社の主力市場であるインドでも、人口14億人のうち、まだスズキとはつながりがないお客様が10億人いらっしゃいます。次の10億人のお客様に商品をお届けするには、各事業でAI・データを有効に活用し、我々の知恵や経験の範囲を超えた、今まで発想もしなかったような商品を求めていかなければ実現できません。

スズキはAIを積極的に活用していき、今まででは及びもしなかった新しい視点を獲得し、スズキらしいやり方で変革してまいります。

企業は人なり。人同士がコミュニケーションでつながり、全従業員とデジタルが融合していくことで、お客様への提供価値と事業効率を上げてまいります。そして、お客様、社会にとって身近で頼りになる存在「By Your Side」であり続けます。

代表取締役社長 **鈴木 俊宏**

スズキのOS：社是・行動理念



役員からの宣言から始まったデジタル変革

2022年6月3日

経営層が自ら行動変革宣言「役員・本部長が業界No.1デジタルチームになる」

- ・スズキの「小・少・軽・短・美（商品・サービス・経営）」はデジタルと相性がいいはず
- ・スズキはデジタル経営で業界 No1 にならないと、「小・少・軽・短・美」を実践できなくなる

BEFORE

デジタル変革に対する
優先順位が低い…

従来のやり方を
踏襲…

会議資料は
A3紙だらけ…

ITは他社並みが
目標…

AFTER

○トップから始めるデジタル人材化 2022年8月8日

- ・役員・本部長向けDX研修：社長含めた役員・本部長全員が出席
実施例：生成AIでプログラム作成、ハッキング体験、ローコードアプリ開発
- ・役員課題図書：G検定公式テキストなどAI・DX関連書籍5冊指定（2025年6月時点）

○1か月で全ての会議がペーパーレスに 2022年8月

- ・役員にタブレットの配布 ⇒ 1か月後には役員全員が紙資料不要と宣言！
稟議・決裁のワークフローもすべて電子化

○生成AIアプリ（内製）を業界最速で導入 2023年3月21日

- ・「使用にあたっては3現主義が基本。現場・現物・現実を自身で確認したうえで情報を判断すること」という基本ルールを設定し利用開始を決定
- ・生成AI利用者実績（2025年3月末現在）：
アクティブユーザー：8787名/12500名（70%） 一人当たりの利用回数：60.6回/月

全従業員がデータと AI を武器にして、 チームスズキで中期経営計画「By Your Side」を実現する

①人財の変革

従業員が持つスキル、知識、経験をデジタル技術と組み合わせ、デジタルを使いこなす人財となることで、**全従業員が個の成長**を実現します

②組織・風土の変革

「やрмаいか」精神でチャレンジできる組織・風土を実現し、デジタル活用力を具備した**チームスズキ**として、持続的に成長します

③製品・サービスの変革

全てのバリューチェーン上でデータとAIを積極的に活用し、**お客様**により高い価値、新たな価値の提供を実現します

①人財の変革

従業員が持つスキル、知識、経験をデジタル技術と組み合わせ、デジタルを使いこなす人財となることで、全従業員が個の成長を実現します



トップから始めるデジタル人財化

○経営層/管理職

- 役員全員がデジタル技術の可能性を理解し、経営判断に活用できるようになる。
役員が最新のデジタル技術の原理原則をハンズオンで学び続ける

○全従業員

- 2030年までに全従業員がデジタル人財になる
AIを使いこなし、業務効率化を推進する
全従業員が市民開発者となり、現場に根差した課題を自ら解決していく
E-LearningでDX研修の受講を義務化 年間6回
デジタル人財プロフィールを設定し、従業員のスキルを見える化

従業員が持つノウハウとAIで能力を拡張させ、現場に根差したデジタル人財へ

KPI	2027年	2030年
AI資格（G検定など）取得	全役員	役職者の昇格要件のひとつとして設定
間接業務生産性（2024年度比）	170%向上	300%向上

②組織・風土の変革

「やрмаいか」精神でチャレンジできる組織・風土を実現し、デジタル活用力を具備したチームスズキとして、持続的に成長します

フィジカルとデジタルで実現する組織・風土の変革 ～スズキのOSを強力に推進

フィジカル



デジタル

- コミュニケーションが活発となる組織を構築
人のつながりを強化し、部門を超えた新規プロジェクトへの
チャレンジ促進
- 自己軽発Lab.で一人ひとりの心の軽さを発掘
→一人ひとりの才能を活用することで、
新しい仕事を次々に仕立てる
 - 全社公募で部門、年齢を超えたプロジェクト活動の実行
メンバー公募型の新規プロジェクト 「魔改造の夜」他

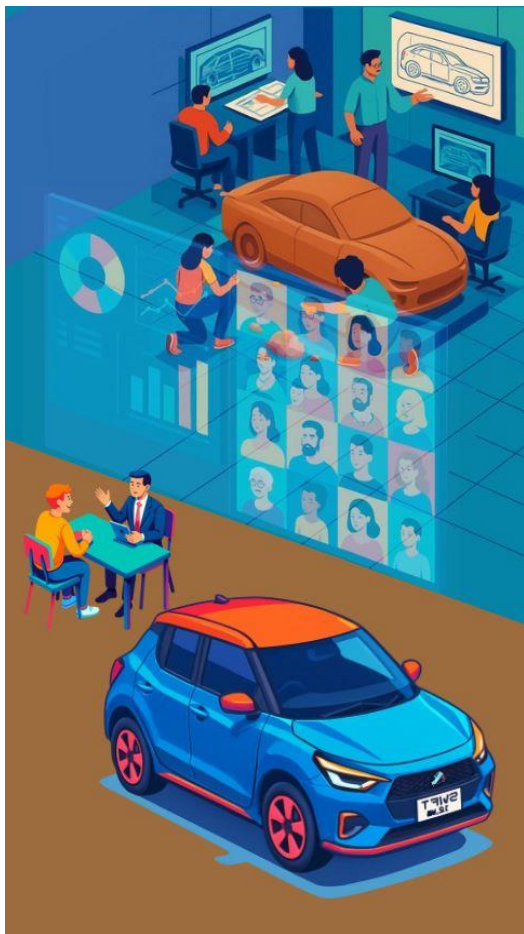
- 中小企業型経営を強力に進めるために、時間と距離を超え、
グローバルにつなぎ、迅速な変化に対応
- 営業、生産、技術などの様々なデータを蓄積するデータ基盤
の構築
→部門を超えてデータを共有し、必要な人が使える環境を
用意する
 - グローバルにERPとPLMを導入し、業務プロセスとデータを
標準化
→部門間・拠点間の連携を強固にし、持続的成長を遂げて
いく

KPI	2027年	2030年
心が軽くなった人数(従業員アンケート回答)	610人以上 (全従業員の3.5%*)	3000人 (全従業員の18%)
社内データ基盤活用 (生成AI含む) 月間アクティブユーザー数	全従業員の50%	全従業員の80%

*「3.5%ルール」：ハーバード大学教授エリカ・チェノウェスによる市民運動等の調査から、全体の3.5%の意識が
変われば組織が変わることが期待できるとする説がある

③製品・サービスの変革 営業分野

お客様との接点を拡大し、お客様理解を進め、最適な製品・サービスを提供し続ける



○お客様とのつながり強化とニーズにあった商品の提案

- すべてのお客様を「SUZUKI ID」でつなげ、
商品に対する思い、ストーリーをお客様へ様々なチャンネルで届け、商品に対する理解を向上させる
お客様との接点からデータを蓄積し、お客様にとってちょうどいい製品の開発や提案を行う
→スズキが持つマルチな製品群の強みを生かしていく
- 公式コミュニティを運営し、お客様とのつながりを強化する
事例：KATANAミーティングでデジタルステッカーを配布しデジタル上でお客様とつながる

○お客様の安心を支えるアフターサービスとデータ活用

- スズキコネクトのデータを活用したサービスを提供し、故障の未然防止と故障を防ぐ設計につなげる
- 過去の整備履歴から交換部品をAIでピックアップし、お客様に最適な整備提案を実践する

KPI	2027年	2030年
SUZUKI IDユーザー(国内)	-	200万人

③製品・サービスの変革 営業分野

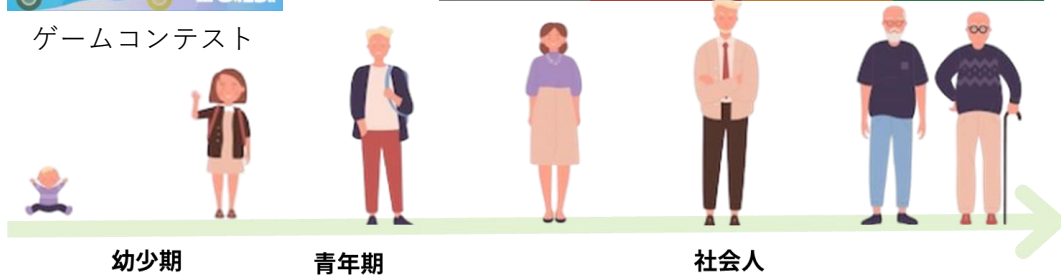
○まだ見ぬお客様との出会いを拡大 スズキファンを増加させる

異業種コラボを含め様々なフィジカルとデジタル施策で
お客様とのタッチポイントを拡大
→お客様とつながり、理解を深める

人数（規模）

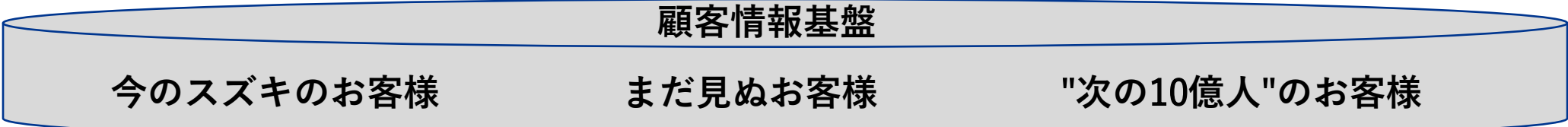
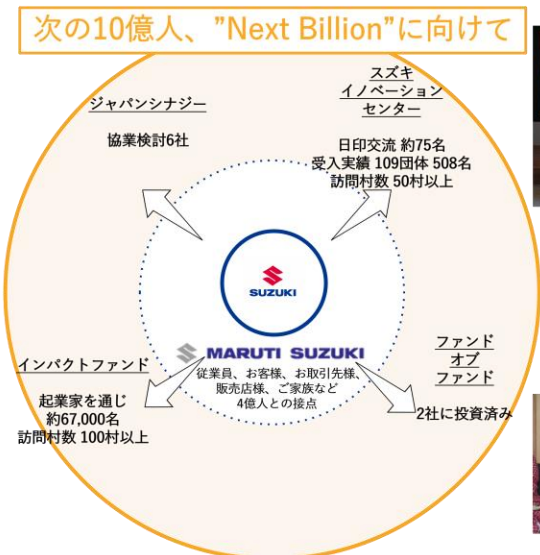


ゲームコンテスト



○次の10億人へのアプローチ インドのさらなる発展に向けて

- ネクストバーラトベンチャーズ（NBV）で次の10億人のために
より大きなインパクトを生み出す偉大な起業家たちを支援
→インドのさらなる発展に貢献し、次の10億人ともモビリティを超えたつながりを築く
- NBV傘下のスズキイノベーションセンターでデジタルを使った
農村地域の課題解決プロジェクトを通じたお客様理解



③製品・サービスの変革 設計分野

開発効率の向上 お客様に価値ある製品をお求めやすい価格でタイムリーに届ける



○要求性能の数値化及び諸元をAIによって最適化・効率化

- 諸元検討時の最適化作業の自動化とAI活用
- 過去の知見の有効活用

○AI適用による設計に必要なデータを見極め・集約し設計条件の設定・最適化

- 開発に関わる大量のデータを集約し、設計条件を効率よく設定する
- 要求性能を満足する設計をAIで自動設計する

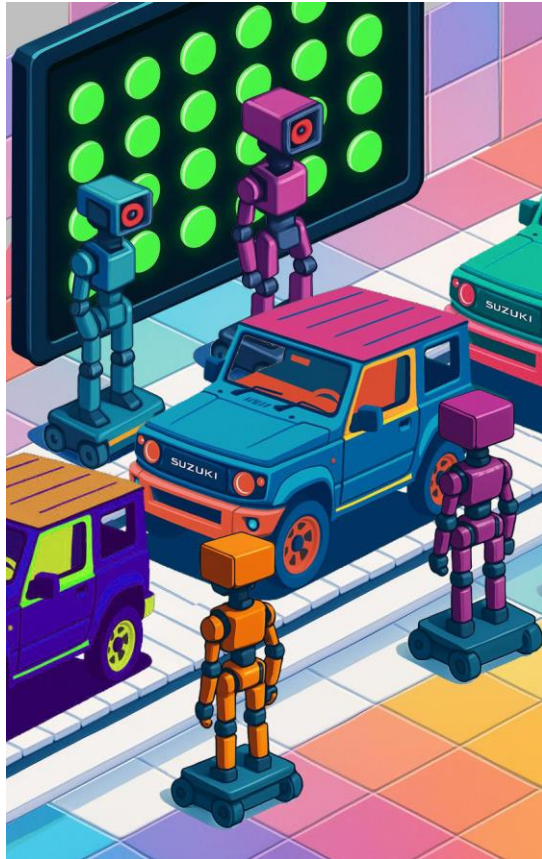
○評価確認実験の削減

- MBDなどのバーチャル技術の拡大とCAE へのAI適用
試作車を削減し、評価確認実験を80%効率化
- AI活用によるテストパターンの充実と、不具合の検出力向上
品質問題を防止し、安心安全のクルマをお届けする

KPI	2027年	2030年
開発効率向上 (2024年度比)	20% (データの蓄積と一部業務へのAIによる最適化開始)	80% (AIによる最適化の適用分野拡大)

③製品・サービスの変革 製造分野

データ・AIを活用した3現・2原の徹底した止まらない・不良を作らない工場の実現



お客様に届ける安心・安全な製品を作る スズキ・スマートファクトリーの創造

世界販売台数

四輪車： 324万台（2024年度） → 420万台（2030年度目標）

○安全 自動化とAIの活用による災害ゼロの達成

- ・ 危険作業の自動化と異常状態の自動回避による災害ゼロの達成
- ・ 異常状態のAI分析を行い、異常発生予測と正常状態の維持でヒヤリゼロを目指す

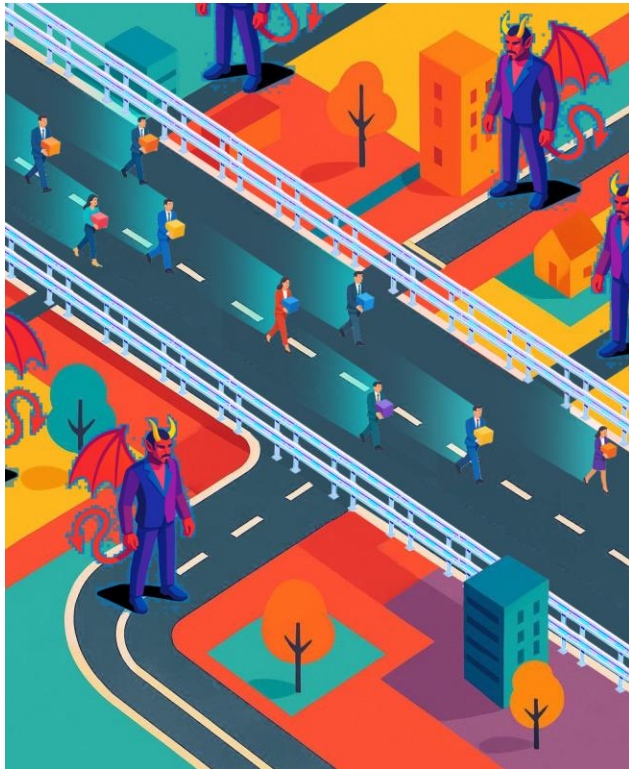
○品質 データ・AIを活用した製造品質不良ゼロの実現

- ・ 不良検出データのAI分析を行い、不良発生予測と良品条件維持で良品100%を目指す
- ・ 画像解析を活用した不良品検出の自動化による製造品質不良流出ゼロの実現

○生産性 予知保全と物流の改善による生産体制の強化

- ・ 設備稼働データを活用して設備不良を未然に検出し、故障前にメンテナンスを実施
- ・ 設備稼働データのAI分析を行い、出荷荷量の予測と物流効率の最適化を目指す

安全、効率的にDXに取り組めるプラットフォームの提供 AI活用推進のためのセキュリティガードレールの構築



○情報セキュリティ管理体制の構築

製品セキュリティ運営を行う組織を設置し、セキュリティに関する定期的な管理を行うことでお客様の日々の安心安全の確保をする

ISO27001（2020年取得）アセスメント活動と内部監査を継続して実施

○ルール・ガイドラインの整備

AIリスクマネジメントの整備

定められたルールの中で自由にデータ・AIを活用できるように、セキュリティガードレールを整備

○情報セキュリティ教育

全従業員へのE-ラーニング教育、階層別研修の実施

標的型攻撃メール訓練の実施によるセキュリティに関する注意喚起とセキュリティ事故発生時の対応方法の周知

DX推進体制



スズキグループでグローバルにデジタル変革を推進

- **業務共通化とグローバル共通システムの活用**

スズキグループのIT部門が集まり、年2回ITサミットを開催
IT部門間の連携を強化し、業務やシステムの共通化などを進め、スズキグループ全体での業務効率向上を目指す

- **スズキグループ間の文化、組織との融合**

NBVへの人財派遣による交流
マルチスズキインディアとのスタッフエクスチェンジ

全本部のAI活用の進捗状況を全役員が確認

- **全本部が業務のど真ん中にAIを活用**

AIによる業務改革（トランスフォーメーション）を実施
四半期に一度、AI活用の進捗状況を全役員で共有し、全社でAI活用を加速させていく

